

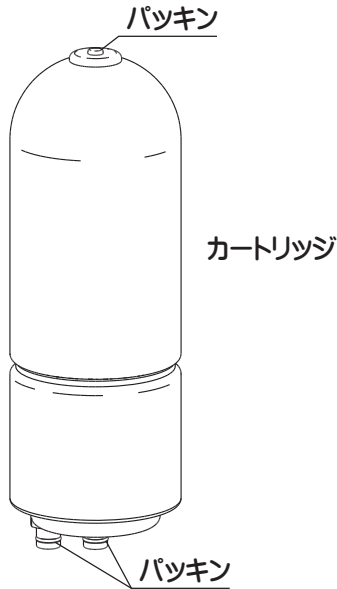


カートリッジの交換方法

π WATER SYSTEM PRODUCED BY ACM

カートリッジ交換方法


交換セット内容




※水の検査用

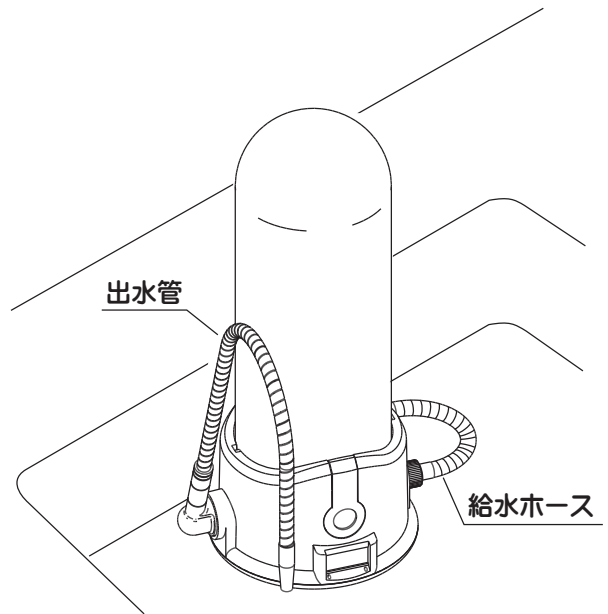


残留塩素測定試薬
(1包1回分 2包入)

 残留塩素測定試薬および残留塩素測定試薬の入った水は、飲まないように注意して下さい。

(1) 本体を流し台のシンク内に入れて下さい。(本体より水がでてくるため)

 本体は重いためお取り扱いには、充分に気をつけて下さい。



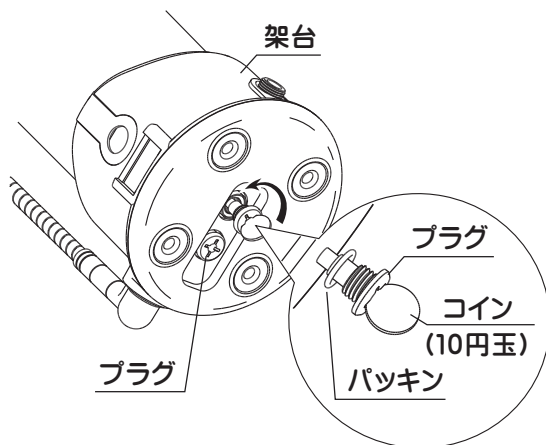
※作業上、給水ホースがジャマでなければ、付けたままで作業して下さい。

(2) 本体内の水を抜きます。

- a 本体を斜めにし、本体底の2つのプラグをコイン（10円玉）により取り外して下さい。
（カバーキャップは付けた状態で行って下さい）



- ・プラグを外すと水が出ますのでご注意ください。
- ・プラグを外したときにパッキンも外れますので、なくさないようご注意ください。



- b プラグを外したまま、本体を立たせた状態に戻し、内部に残っている水を抜いて下さい。

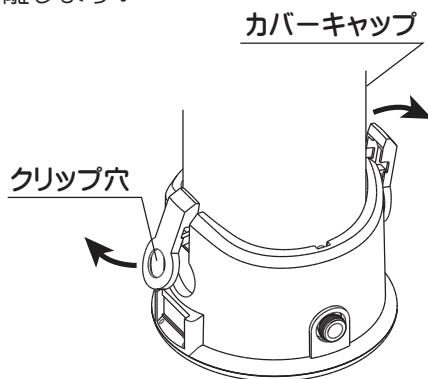
※約10分間放置して下さい。



凍りつく恐れのある場合も同様に、架台底のプラグ2個を外して、本体内の残留水を排水して下さい。

(3) カバーキャップを取り外します。

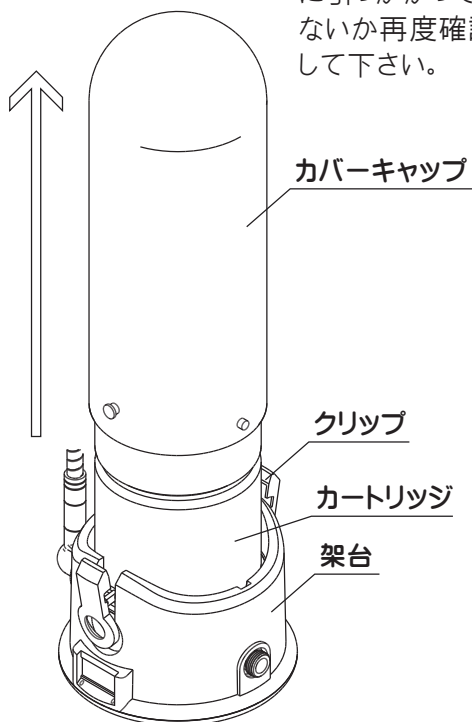
- a 前後にあるクリップ穴を引き、カバーキャップからクリップを引き離します。



- b カバーキャップを上へ持ち上げて外します。



このとき、カバーキャップがクリップに引っかかっているか再度確認して下さい。



新しい交換用のカートリッジを準備して下さい。

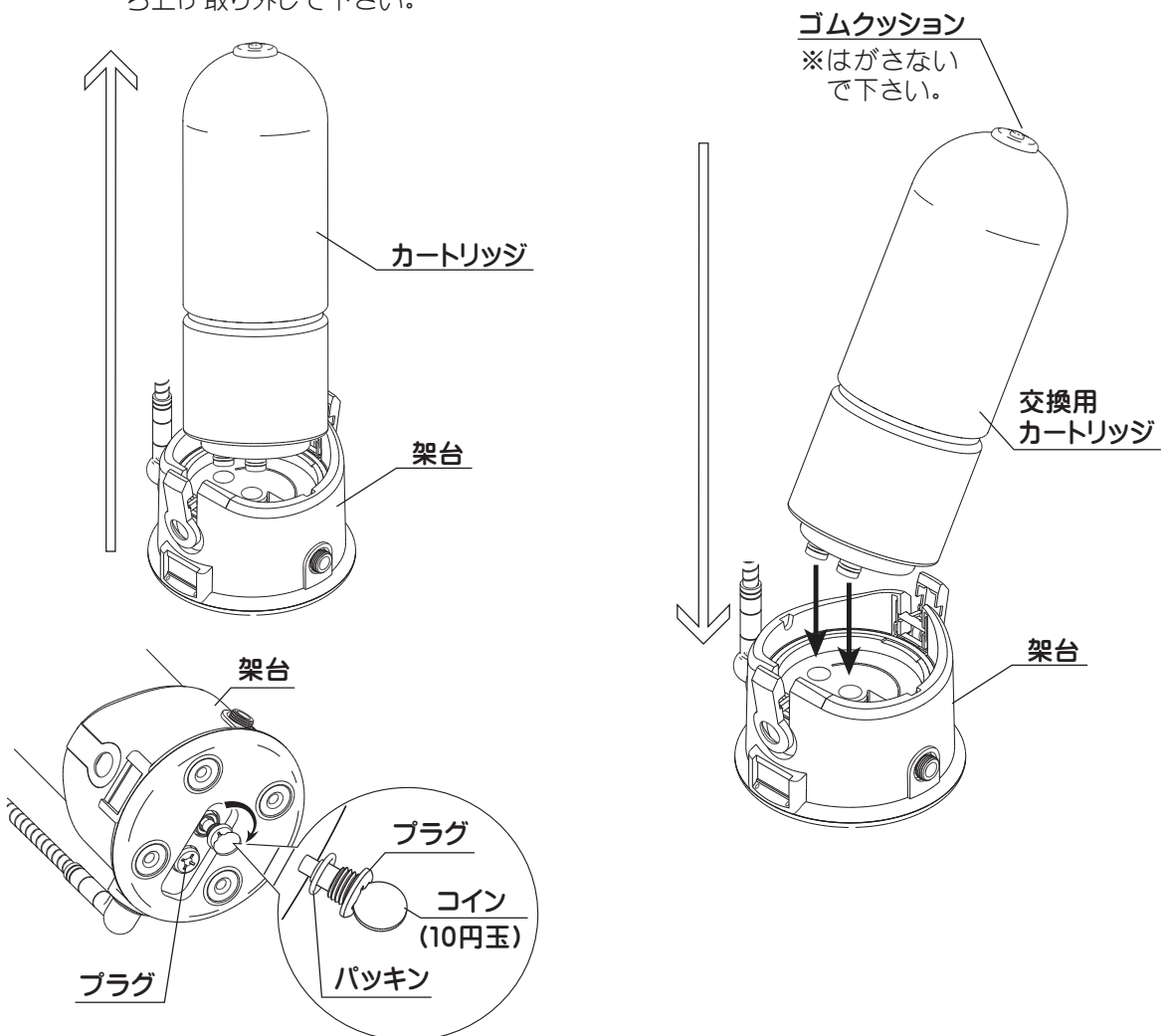
(4) カートリッジを持ち上げて外し、**架台底に外したプラグを取付ます。**



- ・残留水の排水が不十分な場合、カートリッジ内の水が漏れますのでご注意ください。
- ・うまくカートリッジが外れない場合は、**架台を押さえながら、カートリッジを持ち上げ取り外して下さい。**

(5) 本体に交換用カートリッジを差し込みます。

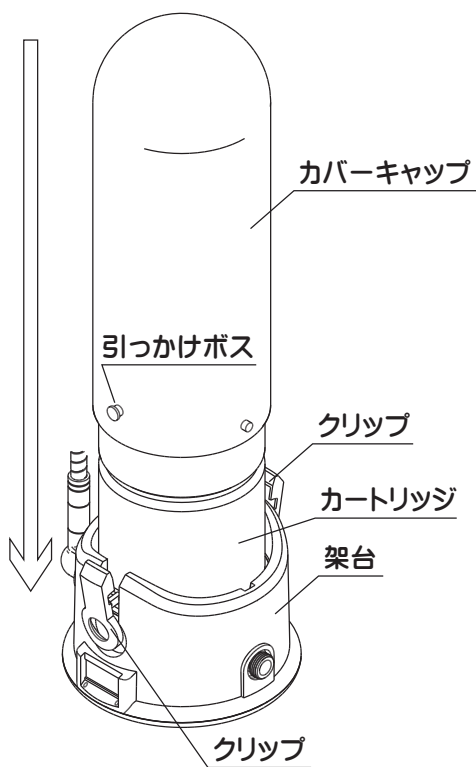
カートリッジ底の凸部と本体の丸穴を合わせて差し込み、その後上から軽く押さえて下さい。



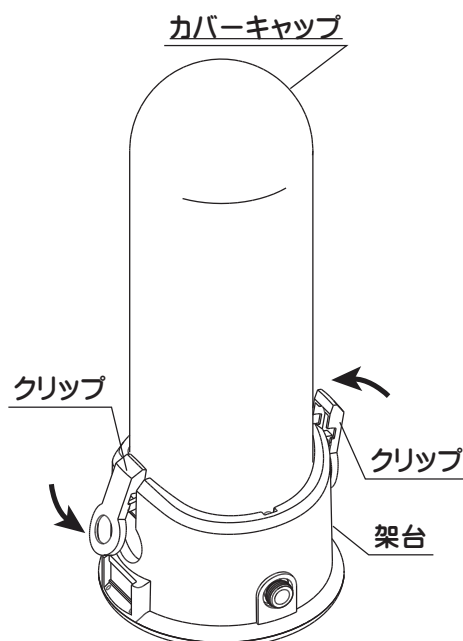
外したプラグにパッキンがあることを再度確認してから取り付けて下さい。

(6) カバーキャップをセットします。

カバーキャップの引っ掛けボスが架台のクリップ位置にくるようにセットして下さい。



(7) カバーキャップを架台についているクリップで固定して下さい。



注) カートリッジ交換完了後、水の検査 (P5) を必ず行って下さい。

※交換後のカートリッジは、お住まいの不燃物処分方法にしたがって処分して下さい。

◆水の検査（残留塩素測定試薬 使用）

これは、活水器が正しく取付されているかを確認する検査です。

確認方法

- ①コップに浄水後の水(約50cc)をとります。
- ②付属部品の残留塩素測定試薬を1袋加えます。
- ③かき混ぜて、無色透明であることを確認して下さい。

(判定は1分以内で行なってください。)

残留塩素測定試薬は、水道水の中に含まれている残留塩素の有無を測定する試薬です。塩素が残留していると水はピンクに変色します。

※但し、1分以上おくと残留塩素がない状態でも変色します。ご注意ください。



ご注意

- 使用後のコップ等は、よく洗ってから御使用下さい。
- 残留塩素測定試薬及び残留塩素測定試薬の入った水は、飲まないように注意して下さい。
- 手などに触れた場合、石けんでよく洗って下さい。
- 万一、目や口に入った場合は、よく水洗いした後、医師に御相談下さい。
- 幼児の手の届かない場所で保管して下さい。

◆ご使用上の注意

- (1) 使用水圧(動水圧)0.35MPa以内でご使用下さい。
- (2) 凍りつく恐れのある場合は、本体内の残留水を排水して下さい。
- (3) 井戸水等(水道水以外)に使用される場合は、必ずご相談下さい。
- (4) 製氷器・湯沸かし器等には、連結しないで下さい。
- (5) ご使用温度は、5～50℃にして下さい。熱湯を通したとき、臭いの成分が浄水に混ざる場合がありますのでご注意願います。万が一、熱湯を通した場合、すぐに冷水で捨て水して下さい。
- (6) 朝、最初に使う場合は、約45秒間捨て水をして下さい。
2～3日使用されなかった場合は、約2分間位捨て水をして下さい。
- (7) 近所で水道工事を行っている時には通水をしないで下さい。
- (8) 金魚や熱帯魚には使用しないで下さい。
 - ・水質の違いにより適さない観賞魚がいるため。
 - ・カートリッジの寿命付近はカルキ(残留塩素)の除去が不十分な場合、魚が死んでしまう恐れがあるため。
- (9) 水の検査用残留塩素測定試薬は、劇物ですのでお子様の手の届かないところに保管願います。また、水の検査終了後のコップ等はよく洗って下さい。